

《原爆-ひろしまの図》公開修復

2015年7月18日(土)～9月27日(日)

ヒロシマを描いた作品を次の世代へ～作品修復作業を公開します

丸木位里・俊によって描かれた《原爆-ひろしまの図》は、夫妻の代表作である「原爆の図」シリーズの集大成ともいえるべき作品で、広島市現代美術館の開館に合わせて収蔵されるまで、広島平和記念資料館に長く展示されていたものです。制作から40年余りが経ち、剥落などの傷みが進む本作を、被爆70周年を機に修復し、ヒロシマを描いた所蔵品を次の世代に継承します。また今回は特別にこの修復作業を一般に公開し、美術館の重要な役割の一つでありながら、普段はあまり目にする事のない作品の保存事業についてご紹介します。

開催概要

【会期】2015年7月18日(土)～9月27日(日)

【修復作業日程】

7月18日(土)、7月19日(日)、8月8日(土)、8月9日(日)、
8月29日(土)、8月30日(日)、9月12日(土)、9月13日(日)、
9月26日(土)、9月27日(日)

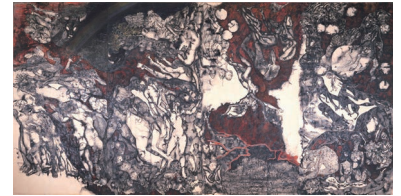
※上記以外の日は、修復中の作品とともに、修復作業の様子を記録映像で公開

【時間】10:00-17:00 ※入場は16:30まで

【休館日】月曜日(7月20日、9月21日を除く)、7月21日(火)、9月24日(火)

【観覧料】無料

【協力】吉備国際大学大学院文化財保存修復学研究科東洋美術研究室



丸木位里・俊《原爆-ひろしまの図》1973
紙本着色
広島市現代美術館蔵



子ども向け関連プログラム

スペシャルワークショップ「インタビュー・ドローイング」

特別展「ライフ=ワーク」とオープン・プログラム「《原爆-ひろしまの図》公開修復」を鑑賞した後、参加者同士で「思い出に残っている出来事」についてインタビューをし、それをもとに「他人の思い出」の絵を描きます。

日時/①8月9日(日)②8月15日(土) 各日10:30～15:30 ※各回同内容

講師/後藤靖香(特別展「ライフ=ワーク」出品作家)

定員/各回20名 対象/小学4年生～中学3年生

※参加無料、要事前申込(申込多数の場合は抽選)

※申し込み=方法はウェブサイトに記載。締切は①7月31日(金)、②8月7日(金)必着。

見よう!話そう!《原爆-ひろしまの図》

美術館のスタッフと話したり、ワークシートに記入しながら、修復中の《原爆-ひろしまの図》を鑑賞します。

日時/①8月22日(土)②8月29日(土)11:00～、14:00～※各回45分程度

定員/各回20名程度 対象/小学生以上

※参加無料、要当日申込(各回開始30分前から受付、定員になり次第締切)

キッズガイド&ワークシートの配布

鑑賞のためのヒントが詰まったキッズガイドやワークシートを配布します(無料)。



参考画像
後藤靖香ワークショップ「一線入魂!」の会場風景

主催: 国立国際美術館



丸木位里、俊と《原爆—ひろしまの図》

●丸木位里（1901-1995年）

1901（明治34）年、広島県安佐郡飯室村（現在の広島市安佐北区）生まれ。22歳の時に上京し、日本画家、田中頼璋の元で学びますが、関東大震災のために師とともに広島に戻ります。1934（昭和9）年、33歳で再び上京し、青龍社展や歴程美術協会展、美術文化協会展に出品、中央で画家としての存在を知られるようになります。

●丸木俊（1912-2000年）

1912（明治45）年北海道雨竜郡秩父別町生まれ。東京の女子美術専門学校（現在の女子美術大学）を卒業し、二科会に洋画を出品していました。位里との結婚前後には、美術文化協会展に参加しています。

丸木夫妻は、1945（昭和20）年8月、被爆直後の広島に入り、約一ヶ月滞在します。そして1950（昭和25）年2月、原爆の悲惨さを伝える最初の作品、《八月六日》（のちに「原爆の図 第1部《幽霊》」と改題）を発表。「原爆の図」は、1982（昭和57）年に制作された第15部《長崎》まであり、丸木夫妻の生涯を賭した創作であるとともに、原爆投下による惨状を伝え、また核廃絶のメッセージを強く訴えるものです。

「原爆の図」は15部にわたる連作のほかにも、求めに応じるかたちで多数制作されました。当館の所蔵する《原爆—ひろしまの図》は、広島市の依頼で1973（昭和48）年に改築された広島平和記念資料館に収めるために制作されたもので、当初は「新・原爆の図」と呼ばれていました。長く資料館で展示されていましたが、1989（平成元）年、当館の開館に際して移されてきたものです。

この作品の広島到着を伝える新聞で夫妻が「原爆投下から五日間ぐらの状況を個々の部分はリアリズム、全体はシュールリアリズムの方式で描いた。十四シリーズにわたっている原爆の図を圧縮した形で表現した」と説明しているように、当時、第14図まで完成していた「原爆の図」の集大成といえる作品です。



今回の修復について

現在、《原爆—ひろしまの図》には、絵の具が浮き上がり、はがれてきている箇所が見あたります。これは制作から40年以上たち、木炭、墨、顔料、また紙など、使われている素材の経年変化によるものと考えられます。また、墨や顔料が何層にも重なった部分は特にはがれやすくなっています。今回は4つに分かれる作品パネルのうち、右から二番目のパネルを修復します。

今回の作業は、絵の具が浮き上がっているところに「膠（にかわ）」や「礬水（どうさ）」、「布海苔（ふのり）」などを染み込ませ、重石をのせて押さえ、接着するものです。この作業をすることで、時間の経過とともに絵具が浮き上がり、はがれてしまう状態を止めます。また同時に、絵具や墨など、使われている素材の調査を行い、記録に残します。

【同時開催】

●特別展 被爆70周年：ヒロシマを見つめる三部作
「ライフ=ワーク」

2015年7月18日（土）～9月27日（日）

●コレクション展「われらの狂気を生き延びる道を教えよ」

2015年7月25日（土）～10月18日（日）

【次回開催】

●特別展 被爆70周年：ヒロシマを見つめる三部作
「俯瞰の世界図」

2015年10月10日（土）～12月6日（日）